英語教育推進事業
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

令和4年7月

池田市教育委員会

1. 概要

・池田市では平成16年3月に構造改革特別区域計画の認定を受け、「教育のまち池田」特区に取り組んできました。 市立小学校全学年に「英語活動」を教科として導入（全学年　年間35時間）し、平成18年度より全小学校で実施してきました。

平成20年7月より「構造改革特別区域研究開発学校」規制の特例措置が全国展開されたことにより、本市の特区認定は取り消され、文部科学省の「教育課程特例校」指定に移行し、これまでの特区内容の教育課程を継続実施しています。

平成25年度に「教育課程特例校」の実施期間の終了を迎えましたが、平成26年度以降も継続を申請し、1～4年生における「英語活動」の授業を実施しました。

新学習指導要領への移行に伴い、「英語活動」は引き続き1・2年生で実施し、幼稚園、小・中・義務教育学校での継続的な英語学習をすすめています。

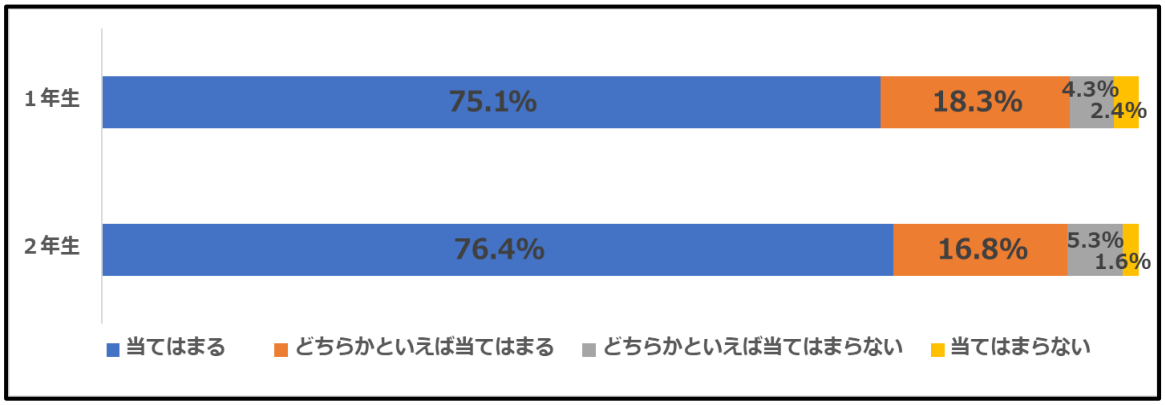
この1・2年生の「英語活動」は生活科の時間を活用して年間15時間実施しています。内容としては主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。早期の段階から英語に触れることで、ことばや文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成することをねらいとしています。中学年からの外国語活動、高学年からの外国語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

・池田市では小学校6年間の英語の学習成果を検証するために、6年生を対象に GTEC を実施しています。GTEC とは、英語の 4 技能（聞く・話す・読む・書く）を測定する外部試験です。4つの技能を全てタブレットで測定します。子どもたちの学習成果を測定するだけではなく、課題をとらえ、外国語の授業改善にも取り組んでいます。

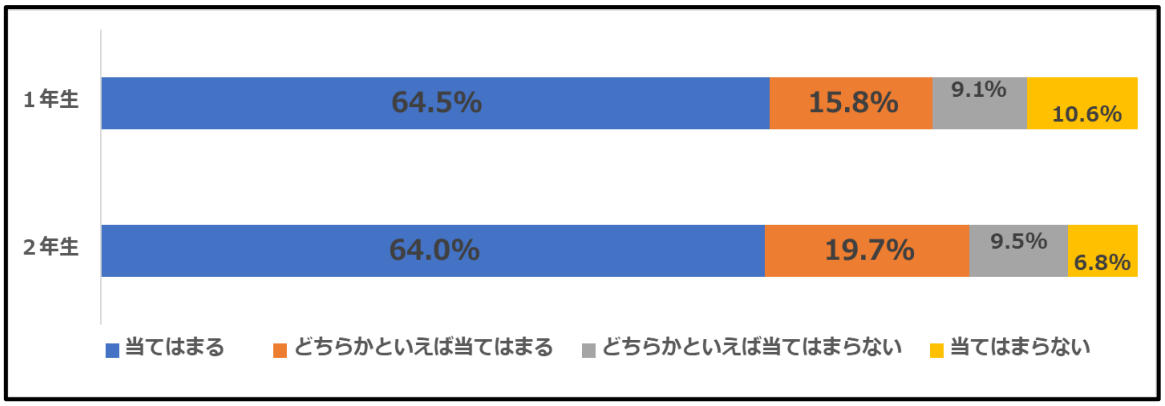
2. 池田市の児童アンケート結果

【小学校1・2年生対象（教育課程特例校における特別の教育課程を実施している学年）】

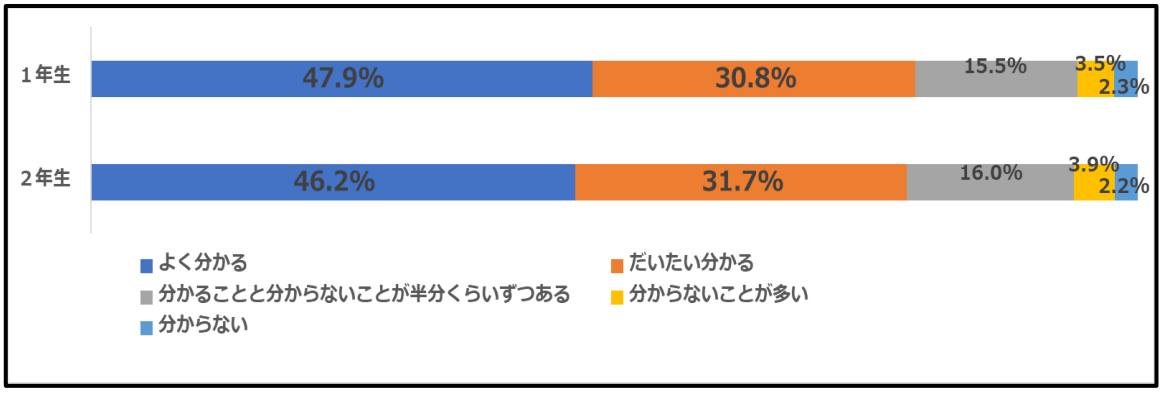
①英語活動の時間は楽しいですか



②英語を使って外国の人と話せるようになりたいですか

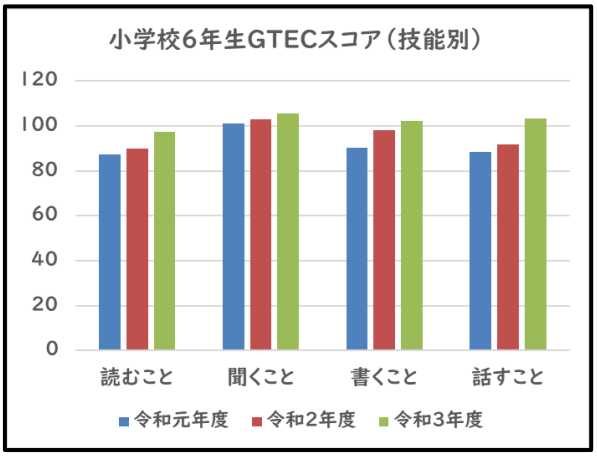


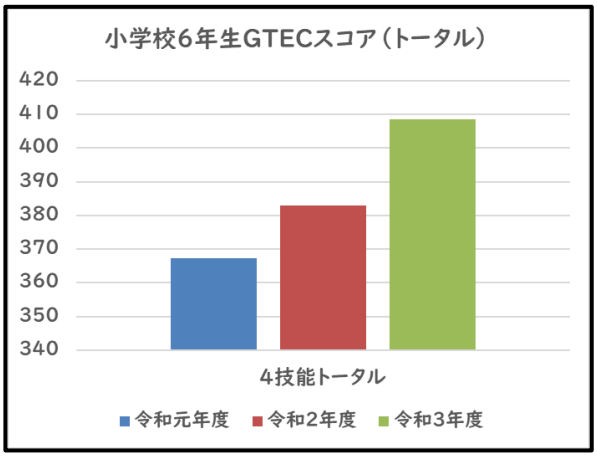
③英語活動の授業はどの程度分かりますか



3. 池田市の GTEC のスコア推移（令和元年度～令和3年度）

※各技能120点満点で、トータルは480点満点です。トータルスコアの全国平均はあくまで参考値ですが、350点前後です。





4. アンケート等の結果より

GTECの受検を始めて5年になるが、この3年間は連続してトータルスコアが増加しており、小学校では英語力の向上が図られている。特に「話すこと」において成果が見られる。学習した文法事項や表現等を用いてペアでやり取りをしたり、発表をしたりする場面を小学校6年間の中で多く設定してきたことの成果であると推察する。しかし一方で、アンケートの結果にもあるように、「英語の授業が楽しくない」と感じている児童も一定数いるのも事実である。今後も児童の発達段階に応じた英語の授業の積み重ね、また、子どもたちが楽しいと思える授業づくりに取り組んでいく。

5. 英語担当教員アンケート（小学校1・2年生の英語活動について）

・小学校1・2年生では、英語のテキストがないため、学級担任と一緒に指導内容をしっかりと考えて、計画を立てる必要がある、発達段階に応じた適切な指導内容を考えていきたい。
・小学校1・2年生で繰り返し「Do you like～？」などの表現を使うことで、3・4年生でも抵抗がなく、授業を進められる。低学年では、楽しんでゲームや歌などのアクティビティを中心に行っているため、「英語が楽しい」という気持ちで、子どもたちが取り組むことができている。
・歌をふんだんに使い、体や指を動かす活動も多く取り入れ、「できる・わかる」授業をこころがけている。児童の英語に対する意欲の個人差をどのように埋めるかが課題。
・簡単なあいさつや気持ち、物の名前などを通して楽しく英語に触れている。はずかしがらずに体全体で表現したり、発表したりする姿は、低学年らしくてとてもよい。
・5年から外国語が教科となり、保護者から「英会話教室や英語塾などに通わさなくて大丈夫か」との声をよく聞くようになった。保護者や子どもに不安を抱かせないように、楽しい授業づくりを心がけていきたい。

6. 保護者・学校関係者等の評価

・低学年から英語に触れる機会があることで、中学年の外国語活動、高学年での英語科につながり、子どもたちが英語に親しみを持って、継続的に学習できるところが素晴らしい。
・家でも英語の学習について話したり、簡単な英語を使ってコミュニケーションを取ろうとするなど、英語に親しんでいる様子が伝わる。
・低学年の頃から「慣れ親しむ」ということは、それ以降につながる大切な経験につながると思う。
・「英語活動の授業はどの程度分かりますか」のいう問いに対して、子どもたちが何をどのように考えて「分かる」「分からない」と答えいるのかをつかんでおく必要がある。
・英語の知識も大切ですが、小学校では英語に親しみ、「話したい」「外国の人とつながりたい」と思えることも大事にするべきだと感じます。
・小学校での英語教育は、「楽しんで身近に感じる」「わからなくても楽しい」と思える 「英語と出会う入口」であってほしいと思います。
・小さい時から耳で英語を聞くことは、英語に慣れる意味でも良いことであると思います。

・英語を小さいときに体感することは、将来的につながるというメリットがあると思いますので、今後も1年生からの指導を継続していただきたいです。
・ワークシートなど手作り教材が嬉しいです。ALT からもらうシールも大切にしています。今後、英語活動の時間以外に短時間でも英語に触れることができれば、より一層、英語を活用したいと思うと感じています。
・低学年から外国の方と触れあえる機会があること、ネイティブな英語に触れられる事は、とてもいい経験だと思います。
・高校生のきょうだいが、「自分の時もこんなふうに教えてもらっていたら今苦労しなくてもすんだのに。」というぐらい、しっかりと教えてもらっている。
・6年生での GTEC の経験は貴重である。
・英語も大切だが、一方で日本語の力もしっかりとつけなければならないと思う。
・英語活動の授業があった日は、家でいろいろ話してくれます。「〇〇は英語でなんていうの？」などクイズをしたり、歌を歌ったりしていて、英語を知るよい機会になっています。
・プリントを見ると、面白そうな内容の授業をしているのがわかり、ゲーム感覚で楽しみながら英語に慣れ親しんでいるので、とても良い機会になっていると思います。

7. 今後に向けて

・低学年からの英語活動により、英語に慣れ親しむという点では効果が出ているように感じているが、3年生以上の外国語活動につながるよう、引き続き児童の興味関心を高められるような授業展開を考えていかなければならない。
・英語に対して低学年から苦手意識をもってしまうことのないように、特に1年生の英語活動においては、どの子も前向きに楽しんで取り組んでいけるような学習活動を工夫していかなければならない。